

平成27年度(2015年度)ゴリ資源状況把握調査結果

幡野 真隆・井戸本 純一

1. 目的

ヨシノボリ類稚魚である“ゴリ（ウロリ）”は琵琶湖の重要な水産資源の一つであるものの、資源生物学的な知見に乏しい。そこで、資源状況把握の一環として、ビームトロール網によるモニタリングを行った。

2. 方法

ゴリの主要漁場である彦根市薩摩地先（SAT）の水深4m、7m、10m、13mの4定点および彦根市松原地先（MAT：水深約7m）、近江八幡市沖島地先（OKI：水深約8m）において、2015年5月15日および6月9日、7月2日、7月29日、8月21日、9月15日、10月15日に底曳網調査用のビームトロール網（ビーム長3m、袋網目合い1.4mm）により魚類採集調査を行った。漁獲サンプルは現場で10%ホルマリンで固定し、後日選別を行った。外見による種判別の困難なハゼ類をゴリとし、その他をビワヨシノボリ、ヌマチチブ等に選別し、計数ならびに体長測定を行った。

3. 結果

調査ではゴリが最も多く採捕され、7月下旬から9月中旬にかけて採捕尾数が多かった。薩摩地先における水深別の調査では昨年度までと同様に7m～10mで多かった(図1)。

また、水域間の比較ではいずれの漁場でも発生量は同程度であったが、ピークの時期はやや異なった(図2)。また、形態判別可能な個体はビワヨシノボリが最も多く、オウミヨシノボリは確認されなかった(図3)。

今後も引き続き調査を継続し、発生量の年変動を把握していく必要がある。

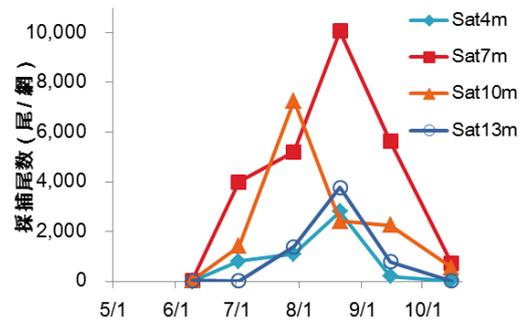


図1 薩摩地先におけるゴリ採捕結果

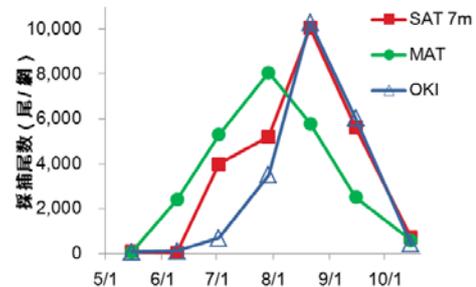


図2 各水域のゴリ採捕尾数の推移

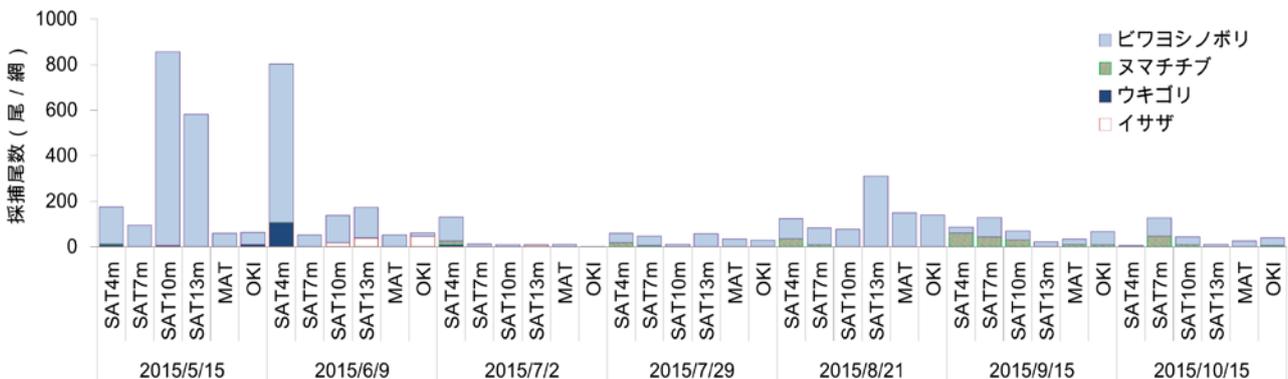


図3 形態判別可能なハゼ科採集個体の採捕結果